



# 博物館ニュース「SHÛ」 NO. 61

“SHÛ” News of Tamagawa University Museum of Education

2023年9月20日

玉川大學教育博物館



## 目次

展覧会への招待……………2  
 博物館の教育活動……………3  
 報告……………4  
 資料をご寄贈いただきました……5  
 開館カレンダー・  
 利用案内……………6

### 鈴木満 《ブルージュの村にて (ベルギー)》

キャンバスに油彩 33.4×45.5cm 1968年

鈴木達也氏寄贈

鈴木満は1968年に妻純子、義妹美知枝とともに約2ヶ月間ヨーロッパ各国に滞在しました。純子と美知枝の帰国後も、鈴木はパリを拠点として翌年まで各国で取材を続けました。作品はベルギー北西部のブルージュ近郊の街並みを描いたものです。ヨーロッパ滞在中はこのような古い建物や街の風景などを多く描き、それらは晩年にいたるまで彼の表現における根源的モチーフになっています。

## 展覧会への招待

### 鈴木満と青木純子・青木美知枝 三人展

—玉川学園7丁目のアトリエで制作活動を続けた作家たち—

この展覧会では、2019年に鈴木達也氏（玉川学園小学部卒業）から寄贈を受けた叔父にあたる鈴木満氏と夫人の青木純子氏、および夫人の妹の青木美知枝氏の洋画作品を中心に紹介いたします（以下3者の敬称略）。

鈴木満（1913 - 1975）は、静岡県田方郡中狩野村（現伊豆市）に生まれ、1928年に上京して太平洋画会研究所、太平洋美術学校で学びました。以後、太平洋画会と官展を中心に活躍し、戦後は示現会の設立会員になり、日展にも出品しました。作品には風景画や人物画が多く、聖母子を思わせる女性と幼児の絵で知られています。

青木純子（1922 - 2016）は千葉県野田市に生まれ、太平洋美術学校で学びました。示現会や女流画家協会の創立に参加し、1970年代からは、人形をモチーフにした作品を多数描きました。

青木美知枝（1928 - 2014・本名節子）は、1946年東京美術学校に入学し、安井曾太郎に学びました。彼女は静物画を得意とし、写実的でありながら、幻想的な雰囲気をもつ作品で一水会や女流画家協会などを中心に活躍しました。

鈴木満は1948年に青木純子と結婚し、玉川学園7丁目に住まいとアトリエを構えました。鈴木は玉川学園に住んで以降、画業のかたわら約17年にわたり、玉川大学出版部発行の書籍に挿絵を提供してきました。学内に飾られていた著名な教育者や思想家の肖像画も多数描いています。鈴木逝去後は青木美知枝が転居し、純子とともに制作活動を行いました。

展示では、ご寄贈いただいた作品のほか、鈴木満の代表作、画材、モチーフとなった品々なども加えて構成いたします。同じ場所で制作活動をした画家たちの三者三様の絵画表現をご堪能いただければ幸いです。皆様のご来館をお待ちいたしております。



鈴木満《夕日（玉川学園坊主が丘）》  
板に油彩 [1948-49年頃] 個人蔵



青木純子《人形の散歩》  
キャンバスに油彩 1970年



青木美知枝《やつでのある静物》  
キャンバスに油彩 1984年

◆会期 2023年10月23日(月)～12月17日(日)

◆休館日 土曜日・日曜日（ただし11/11(土)・12(日)、12/3(日)・9(土)・16(土)・17(日)は開館）

◆会場 玉川大学教育博物館第2展示室 入館無料 ◆主催 玉川大学教育博物館

◆記念講演会 「鈴木満と玉川学園7丁目のアトリエ」 11月12日(日) 14:00～15:30

講師：鈴木達也氏（(一社)サポートミュージックソサイエティ代表理事）

◆ギャラリートーク 11月23日(木・祝)、12月9日(土) いずれも14:00～15:00



## 博物館の教育活動

### K-12 親学講座

令和5(2023)年6月27日(火)、玉川学園に在籍するK-12(幼稚部から高等部)に在籍する園児、児童、生徒の保護者75名が、教育博物館を見学しました。これは、「K-12 親学講座」として保護者を対象とした自校教育活動の一環として行われたものです。

学芸担当教員から教育博物館の沿革や所蔵資料の概要についての説明を受けた後、参加者は、展示資料の見学や博物館が用意した体験活動を楽しみました。

この日、博物館は3つの体験活動を提供しました。1つは絵巻物のハンズオン体験です。学芸担当教員の指導のもとで、絵巻物を自分の手で開きながら鑑賞しました。2つは和装本の閲覧です。江戸期から明治初期に制作された和装本の実物を手にとって閲覧し、それらの内容や特徴、構造、材質などの説明を受けました。3つは明治期の体操用具の体験です。当館では、2021年の企画展「近代日本の学校教育と運動会」にあわせて、明治期の体操用具、球竿きゅうかんや亜鈴あれいを複製しました。参加者は、これらの用具を使いながら明治期の体操を体験しました。

さらに、イコンが展示されている第2展示室では、「イコン(聖像画)ってなんだろう」というギャラリートークも開催されました。

保護者の方々は、こうした体験活動に積極的に参加され、展示資料もじっくりと見学されていました。当館には創設者小原國芳先生の業績や玉川学園の歴史、教育活動に関する資料が体系的に展示されています。今後も当館の展示の見学を通して、保護者の方々が本学園に対する理解を深められるような機会を提供していきたいと考えています。



絵巻物の鑑賞



体操用具(球竿)を使った体操



イコン(聖像画)のギャラリートーク

# 報 告

## 新型コロナウイルス感染症対応

2023年5月8日に、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が、感染症法上の2類感染症相当から5類感染症に位置付けが変更されるのを見据え、当館では4月から、コロナ対策の臨時措置である開館時間の繰り下げ、見学の事前予約及び時間入れ替え制を終了し、3年ぶりに博物館利用の際の条件を通常に戻しました。

臨時措置の適用期間中は、利用者の皆様にご不便をおかけしましたが、ご協力をいただき、ありがとうございました。なお当分の間、手指消毒液の設置は継続し、希望者にお使いいただけるようにしています。

## G. カサド作品（編曲）の演奏動画

当館所蔵の「ガスパール・カサド 原智恵子コレクション」には、チェリストのカサドが作曲・編曲した未出版作品が含まれています。これらは当館で監修の上、順次出版を進めています。このたび2冊目として、J.S. バッハ-G. カサド《コラル 愛する御神にすべてを委ねる者は》が刊行されました。これを記念し、本学園の高校生のオーケストラ部員等が演奏する動画を、作成・公開しました。当館ウェブサイトのカサド・原コレクションデータベースのページから、視聴いただけます。

## 小学1年生の見学

6月19日と20日の両日に1クラスずつ、本学園のPrimary Division（小学部）の1年生64名が、学園内の探検の一環で、保護者60名と共に当館を訪れてくれました。こうした企画で当館を利用してもらうのは、初めてのことです。

19日には、学芸担当のスタッフが展示解説をしながら、皆に見学してもらいました。子どもたちは、ちょうど平仮名を習い終わり、片仮名を学び始めるところで、かつての小学校1年生は、片仮名から先に習ってことを

示す国語の国定教科書を、興味深そうに見ていました。また、1971（昭和46）年の小学部入学式での、小原國芳の訓話の録音も聞いてもらいました。

20日は、山口薫作「鱒池のほとり」を題材に、対話型鑑賞プログラムを実施し、子どもたちは積極的に作品の感想や意見を述べていました。



説明を聞きながら見学する（6月19日）

## 「K-12 親学講座」

3ページで詳細を報告したように、6月27日に、本学園の幼・小・中・高の保護者を対象とした、玉川学園K-12父母会役員会主催の勉強会が、当館で開催されました。学園内の施設の1つとして当館を知っていただくとともに、学習プログラムをいくつか用意しました。プログラムは、児童生徒が当館を利用して学ぶ際に体験しているもの、博物館実習や企画展での教育普及プログラムをアレンジしたもので、博物館での学習について、理解をいただけたかと思います。

## 通信教育課程博物館実習

8月7日から12日までの6日間、本学教育学部教育学科通信教育課程の夏期学芸員スクーリングが実施され、博物館実習を開講しました。合計64名の受講者が4組に分かれ、当館スタッフ及び博物館や文化財の分野で実務に携わる非常勤講師の指導の下、博物館運営の実際や、資料の取り扱い、展示等について実習を行いました。

## 学園創立者の生誕地視察

玉川学園創立者、小原國芳（1887-1977）の出身地である鹿児島県南さつま市と、玉川大学との包括連携協定締結10周年記念式典が、8月19日に同地で開催されました。当館の学芸担当のスタッフ等も、6月の準備打ち合わせの際や式典時に出席者に帯同して、小原國芳生誕地の南さつま市坊津町久志を訪問し、生家跡や母校跡等の視察調査を行い、創立者夫妻の墓参をしました。

創立者の幼少期の様子や故郷への思いは、彼の自伝等に語られていますが、そこに記された様相を現地ではつぶさに確かめることができました。今回、気候風土を含め創立者の生誕地で把握した知見を、今後の当館における展示・教育活動や、自校史教育に活かしたいと思えます。



小原國芳生誕地公園にて

## 通学課程博物館実習

9月4日から7日及び11日から14日の2

期に分けて各8名、通学課程で博物館実習を履修する学生の、館務実習を当館で実施しました。ガイダンス・施設見学の後、学芸担当教員の指導の下、学芸員としての日常業務を経験しました。今回は、考古資料を中心にまとまった量の資料を収蔵庫間で移動する必要があり、実習生の諸君の手を借りて実施しました。実習生は学芸業務に力仕事が少ないことに思いを新たにしながら、9月とはいえ収まる気配を見せない猛暑の中、重い資料の移動に、熱心に取り組んでくれました。



資料の撮影実習

## 統計（2022年10月～2023年3月）

開館日数 82日 入館者数 1,275名

### 収集

〔資料〕	教育	2件
	芸術	6件
〔図書〕	和書	94冊
	洋書	0冊
〔定期刊行物〕	和雑誌	25冊
	洋雑誌	6冊

## 資料をご寄贈いただきました（敬称略 2023年2月～8月）

吉川由紀子	教育資料	2点	川崎 くみ	芸術資料	3点
宮野 好子	芸術資料	1点	楢本 晋也	教育資料	19点
厚東 洋子	教育資料	14点	篠原南都子	教育資料	5点
	学園史資料	1点	澤村 恭子	芸術資料	1点

ありがとうございました



# 2023年度下半期 開館カレンダー

2023年10月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

11月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

12月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

2024年1月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2月

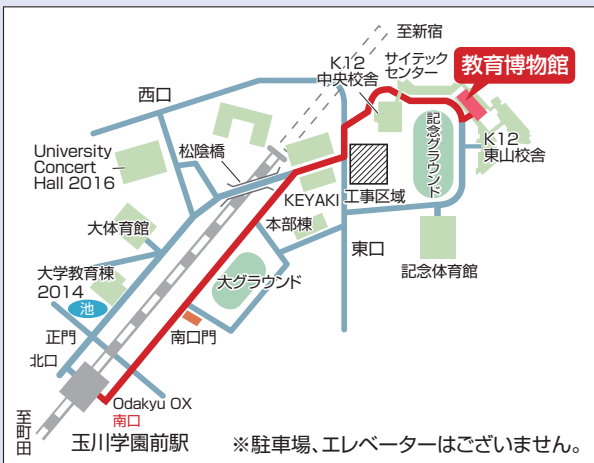
日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29		

3月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

- 休館日
- 第1展示室(日本教育史常設展示)のみ公開
- 企画展「鈴木満と青木純子・青木美知枝 三人展」

※ この予定は、大学授業・行事日程、社会情勢等により変更することがあります。  
 詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。電話等にてお問い合わせください。



## 交通手段

小田急線「玉川学園前」駅下車 徒歩 15分  
 ※駅南口から線路沿いの道を新宿方向に進むと、玉川学園の校門(南口)に行き当たります。博物館にお越しの際は、校門の案内所にて入校手続きをお願いします。  
 (来館者用駐車場はありません。お車での来館はご遠慮下さい。)

## 利用案内

- 開館時間 午前9時～午後5時  
(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 日曜日・土曜日・祝休日・玉川大学の定める休日・展示替期間  
(臨時に変更することがあります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。)
- 入館料 無料

博物館ニュース SHŪ No.61  
 2023年9月20日  
 編集・発行 玉川大学教育博物館  
 〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1  
 TEL 042-739-8656 FAX 042-739-8654  
[www.tamagawa.jp/campus/institutions/museum/](http://www.tamagawa.jp/campus/institutions/museum/)

『SHŪ』は、漢字で『集』とあらわします。  
 博物館に「集」められたさまざまなものをめぐり、多くの人々の「集いの場」になるようにと願って名づけました。